

まぐろから見える世界

(社)責任あるまぐろ漁業推進機構顧問 原田雄一郎

32

足かけ4年にわたる400万トンを超えるレベルに達している。IFを閉じる時が来た。AO統計。特に、発展途上国においては、その経済的發展の鍵を握り、あらためて取りまごめて、最終回としての。

400万トンを超えるレベルに達しているIFを閉じる時が来た。AO統計。特に、発展途上国においては、その経済的發展の鍵を握り、あらためて取りまごめて、最終回としての。

「世界に必要増加したマグロ」

言うまでもなく、マグロは、日本人に最も好まれている魚の一つだが、今や、多くの国にとって重要な貿易商材ともなり、世界的に需要が増加している。

(1980年代、世界のマグロ類の生産量―カツオを含む―は、約190万ト。最近では、

日本のマグロの漁獲および消費に、国際社会の中で、特別の地位を占めている。

「まぐろ法」(まぐろ資源の保存及び管理の強化に関する特別措置法)第一条は、日本のかかげれば、「国際ルールを守らずに漁獲する便宜置籍漁船の廃絶」「違法マグロの市場からの締め出し」を国際社会に訴え、そのための国際ルールの制定と確立に貢献した。また、「世界のマグロ地域漁業管理機関(RFMOs)の弱点を補強するための国際協力を推進した。特に、全てのRFMO

る便宜置籍漁船の廃絶」「違法マグロの市場からの締め出し」を国際社会に訴え、そのための国際ルールの制定と確立に貢献した。また、「世界のマグロ地域漁業管理機関(RFMOs)の弱点を補強するための国際協力を推進した。特に、全てのRFMO

に同調する各国の力を結集し、彼らの不合理な意図の実現を阻むべく、振り返ってみれば、あの時(2010年ワシントン条約会議)、大西洋クロマグロが絶滅の危機に瀕した。多くの国が、漁獲能力を抑制する必要を認めつつも、自国のマグロ漁船の増強に走る中で、日本の行動は、際立っている。自国の漁船団を削減してでも、率先して資源の保存・管理の実をあげようとしたのだ。思えば、多くの船主、乗組員が、マグロ漁業から去った。彼らの顔を思い出すと、今でも、胸が痛む。

しかし、世界共有の財産であるマグロ資源の持続的利用を確保するためには、誰かが、旗を高く掲げ、問題解決の先頭に立つていかねばならない。日本が、今後も、その役割を果たすことを期待するとともに、この思いを次世代に託したい。

(おわり)

資源管理 今後世界的にも世界の先頭に

持続的利用の旗、高く掲げ

その活用への意欲が一段と高まっている。

◆法律で国是

◆国際ルール

◆行き過ぎた保護運動にも対抗

◆痛みを堪え

◆資源管理

◆世界的に必要増加したマグロ

◆国際ルール

◆行き過ぎた保護運動にも対抗

◆痛みを堪え

◆資源管理



原田雄一郎氏は、マグロ資源の保存・管理の強化に努める。このため、これまで懸念を重んじてきた。具体例をいくつか挙げれば、「国際ルールを守らずに漁獲する便宜置籍漁船の廃絶」「違法マグロの市場からの締め出し」を国際社会に訴え、そのための国際ルールの制定と確立に貢献した。また、「世界のマグロ地域漁業管理機関(RFMOs)の弱点を補強するための国際協力を推進した。特に、全てのRFMO